

令和6年度第20回都市経営会議 令和7年(2025年)2月3日(月)開催

(議題1・2の関連報告：市民の方からの寄附について)

- 本日の議題として予定されている補正予算の関係で報告する。宝塚市の売布に、ぷらぎこむという福祉施設がある。この施設は、阪神・淡路大震災後にボランティアや福祉コミュニティの発展を願って財団を設立し、2002年には宝塚福祉コミュニティプラザの建設整備をされるなど、長年、福祉の発展のために力を尽くしてこられた市民の方の手によりオープンした施設である。その方からは、以前から財団を解散し、将来、施設の土地を市で引き取り管理をしてほしいとの申し出をいただいていた。その話を進めていた際に、病院建設の話になり、本年1月初旬に市へお越しいただいた際に、寄附という形で病院建設に協力するとの申し出をいただいた。寄附額は250億で、目的は市立病院の建設である。

寄附条件としては、①市立病院建設に関する基金を設置すること、②基金を設置しないとき、あるいは基金設置から5年経過しても設計に着手しないとき、また、③設計に着手しても、市が市立病院の建設をしない判断をしたときには契約を解除するというものである。これは負担付寄附に当たるため、地方自治法第96条第1項第9号の規定により議会の議決が必要となる。

なお、本件については1月27日に契約済であり、翌28日には市の口座に寄附金を入金いただいている。

あわせて来年度、病院で手術支援ロボット(ダヴィンチ Xi)を購入する話をしていた際に、この医療機器購入のために必要な費用についても見積額どおりご寄附をいただけることとなった。残額が出た場合でも、医療機器の購入に充てて良いとの申出書をあわせて頂戴している。

また、売布にある福祉施設のうち、プレミア宝塚については建設に要した費用を割賦しているところであるが、あと6億ほどが残っている。これについても、来年度の当初予算からは免除、つまり支払いをしていただかなくとも構わないとのお話をいただいております。これらすべてをあわせると、総額にして260億にもなる。

3月補正において、寄附による大きな予算が計上されるため、事前にお知らせしておく。本件については本日、市議会及び市政記者クラブにも情報発信する。

- 本件に関して、寄附者の方から市立病院建替え費用のための寄附に至った経緯について、お気持ちを綴った文書を頂戴したため披露させていただく。

「阪神・淡路大震災の時に私たちはボランティアを初めて経験しました。この経験からボランティア活動や福祉コミュニティの重要性を知る事となり、少しでも力になりたいとの思いから、財団を設立し、2002年に宝塚福祉コミュニティプラザの建設整備を行いました。その時に相談にのっていただいたのが宝塚市さんでした。

その後も、様々な面で宝塚市さんにはご協力をいただきました。

また、財団は宝塚福祉コミュニティプラザの建設から23年間、ぷらごこむ1を主として宝塚福祉コミュニティプラザを運営し続け、市民の活動場所として提供してきました。しかし今後も未来永劫継続するため今の形で続けて行くのが良いのか熟慮した結果、宝塚市さんや宝塚市社協さん等へ継承し、財団を解散するのが最善であるとの結論となりました。そして、この件で宝塚市さんとも相談をしてみました。その話の中で、余談として病院の建替えの話があり、その建替え工事費用が莫大で市の財政上大きな負担になる事をお聞きしました。

今までご協力いただいた宝塚市さんのために、また宝塚市民のためになるのであればとの思いで、私たち夫婦が話しあい、今回、宝塚市立病院建替え費用のための寄附をする事となりました。」

- ・ 市民のためという一方で、市民もまた、市に対して様々なことを提供しなければという思いをお持ちである。
- ・ 病院の名前については、市民に親しんでもらうと同時に、市民の協力のもとで完成した病院であることが分かるような名前を付けてもらえれば嬉しいとお話されていた。その点についても、検討していきたい。

1 令和6年度補正予算について

【提 案】 企画経営部

【結 果】 承認

【質疑等】

- ・ 国の税収が増えたため普通交付税が増額になったとのことであるが、公共施設の光熱水費に充てられるような普通交付税を増やすという記事を見た記憶がある。今回それも含まれているのか。

⇒ 普通交付税約9億の内訳としては、臨時財政対策債が約3億、名目的には給与改定分が約3.3億、残りは臨時調整分である。光熱水費は交付税が増えた理由の一つとなっている。

- ・ 先ほどの寄附の話を受けて、10年間の財政見通しにどのような影響があるか。

⇒ 基本的に250億は基金に積み立てる。特定目的基金であるため一般会計には入ってこない。そのため、現在の財政構造の改善に即影響するわけではなく、粛々と改革を進めていかなければならない。

一方で、この厳しい財政状況は病院の建替え費用が一因であるため、今回の寄附により、少しは状況が改善すると見ている。様々なことを考えながら、新しい財政見直しを作っていく必要がある。

- ・ 病院の建替えのための積み立ては減るのでは。

⇒ 建設費が397億になった時点で、年度あたり7億程度を積み立てていかなければならないと考えていたが、その部分は減ることになる。

- ⇒ 今後、病院への250億の充て方を考えていくことになる。病院の将来支出がどうなるかを精査しながら、市としての財政見通しを作っていくことになるかと思う。
- ⇒ 250億は運用ができる。1%であっても毎年2.5億円が入ってくる。それも歳入になっていくかと思う。
- ・ 議会や記者への情報解禁はいつか。寄附者のお名前は出して良いのか。
- ⇒ 名前は出して構わないとの承諾を得ている。本日の会議と同時に資料配布しているため、庁内であれば情報共有いただいて構わない。

2 令和6年度宝塚市病院事業会計補正予算（第2号）について

【提 案】 市立病院

【結 果】 承認

【質疑等】 なし

3 令和7年度当初予算について

【提 案】 企画経営部

【結 果】 承認

【質疑等】 なし

4 令和7年度宝塚市水道事業会計予算について

【提 案】 上下水道局

【結 果】 承認

【質疑等】 ※議題5と一括質疑

5 令和7年度宝塚市下水道事業会計予算について

【提 案】 上下水道局

【結 果】 承認

【質疑等】

- ・ 資本的収支の不足額について、損益勘定留保資金での補填はあと数年で厳しくなると聞いているが、令和7年度は問題ないのか。
- ⇒ 水道事業会計については、令和7年度はキャッシュがあるため対応できるが、令和8～9年度にかけて、大型の統廃合事業や管の入れ替えが控えているため多額の資金が必要となる。その場合、キャッシュが不足してくる恐れがあるが、下水道事業会計に15億7,000万の貸付があるため、それが返還されれば対応はできる。しかしながら、下水道事業会計が赤字転落し、今後、赤字幅が広がっていく中で貸付金が返ってこなければ水道事業も実施が難しくなってくる。
- ・ 下水道事業会計については、令和7、8年度と赤字見込みであるため、できれば料金

改定を行い、令和9年度には改善を目指すとのことであるが、その間は資金面で対応可能ということか。

⇒ 令和7年度はぎりぎり黒字かどうかというところ。下水は武庫川流域と猪名川流域とで色々な構成市で運営しているのだが、その負担金が大きく、さらに負担金が値上げされてしまえばかなり厳しい状況になる。その辺りを踏まえて、構造的な改革として令和9年度に料金改定を行い、持続可能な下水道事業として運営していきたい。

・ 埼玉県八潮市で発生した道路の陥没事故は下水道が原因だろうと言われているが、本市への影響は。

⇒ 埼玉のケースは県が実施している事業であり、管の口径が4.75mと非常に巨大なものである。本市の場合は管の口径が最大でも1.35mであり、それら重要な下水道管については大半がカメラを入れて調査を行っているため巨大な陥没は考えられない。現在、国からの照会を受けて、県も調査を行っているところである。

6 令和7年度宝塚市病院事業会計予算について

【提 案】 市立病院

【結 果】 承認

【質疑等】

・ 令和6年度に比べて入院患者数も増え、1人1日あたりの診療収入も3,000円上がる見込みとなっているが、その根拠は。

⇒ 現状から説明すると、入院患者数はこの1月も大変多く、1日あたり300人程度となっている。通年で見ると279人程度となり、ほぼ予算に達する程度にまで回復している。

次に、1人1日あたりの診療収入単価については、通年で見て71,000円余となっている。経営強化プランにも記載しているように、これから急性期充実体制加算を取得することにより、診療収入単価が2,000円増える見込みとなっている。この点について、令和6年度の診療報酬改定で心臓血管外科の要件が追加されてしまったため、当初狙っていた加算1は取れなくなり、現在は加算2を取りに行っている。本年5~6月には取得できる見込みであり、取得できれば患者1人あたり2,000円程度はアップする見込みである。そのため、73,000円は妥当な単価と考えている。

・ 収支について、昨年度より良くなっているものの、令和7年度も厳しい状況となっている。持続可能という部分も大切ではあるが、それ以上に、新病院の建設に向けて一定のプラスを生み出していかなければならない。250億という多額の寄附で大分状況は変わるにしても、病院も年間数億円の黒字を出さなければ経営が成り立たないと思う。今後の見込みをどのように考えているか。

⇒ この度の寄附により、経営改善の気が緩むことがあってはならないと考えている。少なくとも経営強化プランに掲げる数字は達成していきたい。令和6年度は3億余の赤

字を見込んでいたが、現時点では2億程度の赤字に収まる見込みである。令和7年度も2億余の赤字見込みとなっているが、予定損益計算書では、決算ベースで見ると黒字を見込んでいる。経営強化プランでは、令和8年度に2億1,100万円の黒字を見込んでいるため、今後もプランに沿って経営改善を進めるとともに、達成に向けて様々な方策を打ち出していきたい。

- ・ 今年度も2億程度の赤字見込みであるとのことだが、新病院の建設に向けて体力をつけていかなければならない。その辺りの対応をしっかりとお願いしたい。
- ・ 現在、配管工事で稼働していない病床があるが、令和7年度はいつ頃から、どの程度の病床数が復活する見込みであるのか。

⇒ 令和7年8月で工事は完了し、9月からは367床で対応していきたい。下半期からフルで病床が稼働できることをもって、患者数増を見込んでいる。

- ・ 稼働率との兼ね合いにもなると思うが、令和8年度はこれが通年化して、さらにプラスが見込まれると考えて良いか。

⇒ そのとおりである。

- ・ 工事の関係について、令和7年度の下半期からは病床数が増えるということだが、看護師の人数によっては、いくら病床数があっても受け入れられないという話が以前から課題としてあったと思う。状況は改善しつつあるのか。

⇒ 令和6年度に、看護部が新人の離職防止をはじめ、様々なことに取り組み、年度途中の退職者はほぼいない状況にまで改善した。一方で、ライフステージの繋ぎ目のところで年度末に向けて退職希望が出てきている。そこをどれだけ引き留められるかにもよるが、現時点での見込みでは、令和6年度当初よりも5~6人多い状況である。

しかしながら、育児休業者が40人程度となる見込みであるため、マンパワーが不足する恐れはある。課題解決に向けて、現在、派遣看護師の獲得などに励んでいるところである。

- ・ 給与費について、地域手当はどのような計算になっているのか。

⇒ 人事院勧告により、地域手当は令和7~9年度に1%ずつ落としていき、3年後には現行の15%から12%になる。それは市職員であっても病院であっても同じような考え方になる。

- ・ 当初予算に反映しているか、確認しておいてほしい。
- ・ 手術支援ロボット（ダヴィンチ Xi）について、患者獲得の起爆剤であったり、収入収益にも繋がり得るという話を聞いているが、予算には反映されているのか。

⇒ 短期的な収益はもちろん、長い目で見ても、収益率の高い外科医が獲得でき、必ずプラスになると考えているが、来年度予算にはまだ盛り込めていない。

- ・ 機器の導入はいつ頃になるのか。

⇒ 早ければ6月頃に物が入り、秋頃からの稼働を目指している。

- ・ 再来年度からは予算に反映されていくのか。

⇒ 分析の中でどれくらいというのはできると思う。

- 収支見込の中で、大規模改修がひと段落すれば収支がやや改善するというのはその通りであると思うが、病院の予算や決算の状況を見ると、見込みよりもかなりの額が下回る状況が続いている。市の一般会計にもかなり影響しているため、その点については病院の中でもしっかりと共有いただき、今後は見込みより改善した話が聞けるような取組を期待したい。